

Q：外部からの放水作戦の成功で 3 号機の使用済み核燃料一時貯蔵プールに注水できて小康を得ました。よかったですとホットしました。でも 3 号建屋の上部が破壊されたから上部がむき出しになり、外部からの放水が可能になったのであり、もし建屋が健在でだったらどうなりましたか？

A： 確かにご指摘の通りですが、その点に関し調べましたが、専門家の解説はありません。素人が勝手に想像することですが、3 号機の「使用済み核燃料一時貯蔵プール」は建屋のなかにあり、原子炉とは別にある施設で建屋の上部にあります。

燃料棒は原子炉の中で核反応分裂で熱エネルギーを放出し続け、約 3 年で使用済みとなり、新しい燃料棒と交換します。そうして取り出した燃料棒が「使用済み核燃料」ですが、崩壊熱を出しつづけますから、これを冷却しなければならず、「使用済み核燃料一時貯蔵プール」に入れて冷却水を循環させ崩壊熱を冷却するのですが、これが長期間で約 3 年くらいかかるのです。その間冷却水の循環が必要ですが、今回の事故のように冷却水の循環が停止すれば、崩壊熱によりプールの水は蒸発してしまい、燃料棒は露出し、最悪メルトダウンの可能性があります。

ですから必死になって外部からの放水に拘ったのです。素人が考え込んでしまうのは、建屋の上部が破壊されたから外部からの放水が可能になった。もし水素爆発がなく建屋が破壊されなかったら放水は不可能、或は建屋の崩壊がなかったら、放水の必要はなかったのか。しかし、そんなことはない、原子炉とは別にプールでの貯蔵であり、それも覆いのないむき出しですから、崩壊熱で水は蒸発、燃料棒が露出し、崩壊熱で融解はありうることで、その結果の被害はどのようなモノなのか。或は建屋は 1～2m の厚いコンクリートの壁で覆われていますから、健在ならば放射能は内部で抑えられたのか。または、建屋の外側からプールに直接注水できる施設があったのか。素人には判らないことばかりです。専門家の解説を是非訊かせて下さい。

Q：使用済み核燃料はどの位あるのですか？

A： 東電発表によりますとい、3 号機 514 本。 4 号機 1331 本。 5 号機 946 本。
6 号機 876 本。 共用プール 6375 本。 だそうです。

Q：放水は電源が回復し冷却水循環システムの再稼働まで続けたのですか？

A：3 月 19 日 この日から外部消防隊が揃い本格的な放水作戦が開始
東京消防庁ハイパレスキュー隊（消防救助機動部隊）139 名、屈折放水塔車、
特殊災害対策車、大型化学車、ハシゴ車、作業車等 計 30 台参加、
屈折放水塔車へ 2 台で水を補給する中継車を連結で連続毎分 3.8 トン放水可
放水作業は、使用済み核燃料一時貯蔵プールへの冷却水循環システムが再稼働するまで継続し、融解を防ぐことに成功しました。

午前 0 時半、東京消防庁ハイパレスキュー隊 3 号機への放水開始、20 分の放水で中止。